

Pudu Robotics、商用ロボット芝刈り機3機種 PUDU GT シリーズを発表

Pudu Robotics（本社：中国深セン、日本法人 Pudu Robotics Japan 株式会社 代表取締役社長：張涛、以下、PUDU）は本日、AI プロフェッショナルなグラウンド整備および芝生管理業務向けに設計された商用ロボット芝刈り機の新製品群、PUDU GT シリーズを発表しました。PUDU GT3、PUDU GT5、PUDU GT7 の3機種で構成される本シリーズは、商業施設の総合的なグラウンドケア、広大な芝生エリアの高効率メンテナンス、ゴルフコースやプロスポーツフィールドの精密な芝生管理という、3つの異なるプロフェッショナルニーズに対応します。

プロフェッショナルなグラウンド整備は、単に芝を刈るだけではありません。企業キャンパス、公園、学校、商業施設では、芝生に舗装エリアやその他の分断されたスペースが組み合わさっていることが多く、刈り芝、落ち葉、軽いごみが施設の外観や継続的なメンテナンスに影響する場合があります。芝刈り、清掃、回収に別々の機械と作業工程が必要になると、オペレーターは機械の交換、作業調整、複数回の走行を余儀なくされます。また、大規模な商業用芝生、複雑な施設、プロフェッショナルなゴルフコースでは、求められる要件が根本的に異なります。PUDU GT シリーズはこうした違いを踏まえ、用途ごとに最適化した3機種を展開。各機種は、専用の芝刈り・回収システムと、インテリジェントな自律走行機能を組み合わせています。

PUDU GT3 - 日常のグラウンドケアに対応するコンパクトな芝刈り・清掃

PUDU GT3 は、36 インチ（91 cm）の商用コンパクトロボット芝刈り機です。施設管理会社や、ビジネスパーク、キャンパス、病院、舗装エリアと芝生が混在する敷地など、形状が不規則で分断された施設を管理する社内グラウンドチーム向けに設計されています。大型の芝刈り機では対応しにくい一方、手作業では負担の大きい現場に適しています。

GT3 は、芝生上での芝刈り、刈り芝回収、軽いごみの回収に加え、舗装エリアの清掃とごみ回収にも対応します。内蔵ディスクブラシは、通路、道路端、芝生の境界付近などの日常的な軽清掃に適しています。芝刈りと日常の清掃を1台のコンパクトなプラットフォームに統合することで、GT3 は施設全体でより頻繁に運用でき、日常のグラウンドケアにおける機械の切り替えを削減します。

PUDU GT5 - 広大な商業用芝生向けの高生産性芝刈り

PUDU GT5 は、60 インチ（152 cm）の商用ロボットロータリーモアです。造園・グラウンドメンテナンス業者、施設管理会社、公園、キャンパス、商業施設、住宅地などの広大な芝生エリアを管理するオペレーター向けに設計されています。

GT5 は、要求の厳しい反復的な商用芝刈りサイクルに対応するように設計されています。60 インチの刈り幅により、目標運用効率は 1 時間あたり約 2 エーカー（8,090 m²）。稼働時間は最大 10 時間、1 回の充電で最大 16 エーカー（65,000 m²）をカバーできます（運用条件により異なります）。

GT5 は 1 回の走行で芝刈りと回収を行い、芝を刈りながら刈り芝、落ち葉、芝生上の軽いごみを回収します。芝刈り工程でこれらの異物を取り除くことで、より清潔な仕上がりと健全な芝生の維持を支援します。広い刈り幅と回収ワークフローにより、プロフェッショナルな作業チームは広大なエリアで作業の連続性を高められます。

PUDU GT7 - プロフェッショナルな芝生向けの精密リール式芝刈り

PUDU GT7 は、62 インチ（160 cm）の三連リール式芝刈り機です。ゴルフコース、プロスポーツフィールドなど、刈り上がりの品質、均一性、芝生への配慮、境界制御が重要となるプロフェッショナルな芝生環境向けに設計されています。

GT7 は、RTK、LiDAR、カメラビジョンを統合し、高精度な測位と自律走行を実現します。対応条件下では、RTK 測位精度は最大±2.5 cm です。オペレーターは、刈り取り角度、レーンオフセット、進行方向の回転を設定して、標準化された芝刈りパターンを作成し、芝生上にプロフェッショナルなストライプ模様を再現できます。

GT7 は、独立してフロートする 3 つのリールユニットと、工具不要の刈高（HOC）調整機構を備えています。フローティング式の刈り取りヘッドが起伏のある地形に追従し、地形の変化にかかわらず均一な刈高を維持します。工具不要の調整機構により、追加の工具なしで刈高を変更できます。62 インチ（160 cm）の刈り幅に加え、四輪駆動と最大 30 度の登坂能力により、複雑な地形でも運用できます。

芝生の品質と作業環境が重視される現場向けに設計された GT7 は、より静かな芝刈りも実現します。従来型の燃焼エンジンを使用せず、低騒音のリールシステムを採用しているため、周囲の環境を損なわない静かな運用が可能です。ゴルフコースやスポーツ施設など、騒音への配慮が求められる場所にも適しています。

GT シリーズ共通の AI ネイティブ・インテリジェンスと柔軟な運用

GT3、GT5、GT7 は用途ごとに設計されていますが、商用屋外環境向けに構築された AI ネイティブの認識・自律走行アーキテクチャを共通して採用しています。LiDAR、カメラビジョン、深度センシングにより、人、車両、動物、地形、その他の障害物を認識。自律マッピング、ナビゲーション、障害物回避により、複雑な作業エリアでも安定した運用を支援します。

3 機種すべてが、作業中の回収に対応するファンバキュームと専用の芝取り込み口を搭載しています。導入構成に応じて、自律排出とタスク再開にも対応します。

各機種には、オペレーターが芝刈り、位置合わせ、その他の直接操作が必要な作業を制御できる手動走行モードも搭載されています。これらの機能により、グラウンドチームは、現場の状況や運用上の優先事項に応じて、自律的な定常作業と手動操作を組み合わせることができます。

GT シリーズは、商用屋外作業の要求に応えるため、金属製ボディ、商用グレードのステールシャーシ、IP66 等級の保護性能、非常停止機能を備えています。これらの機能がシリーズ全体に共通する商用グレードの基盤を形成しながら、各機種はそれぞれ異なる芝刈りニーズに最適化されています。

GaLaBau 2026 でグローバル初披露

PUDU GT シリーズは、2026 年 9 月 15 日から 18 日まで、ドイツ・ニュルンベルクの Nürnberg Messe で開催される GaLaBau 2026 でグローバル初披露されます。Pudu Robotics は、屋内展示ブース 9-214 および屋外の Legend Demonstration Area Pf10 で PUDU GT シリーズを展示します。造園、グラウンド管理、芝生管理のプロフェッショナルは、新製品群とその機能を体験できます。

Pudu Robotics について

Pudu Robotics は商用サービスロボティクス分野のグローバルリーダーであり、業界初の専門型・セミヒューマノイド・ヒューマノイドまで網羅したフルラインナップを提供する企業です。Frost & Sullivan の最新市場レポートによると、Pudu Robotics は商用サービスロボット分野で売上・出荷台数ともに世界 No.1 です。「One Brain, Multiple Embodiments」アーキテクチャに基づき、サービス提供、商業清掃、産業搬送、汎用エンボディド AI 用途のロボットを、ホスピタリティ、小売、医療、製造、教育、公共サービスなど多様な分野に展開しています。これまでに 85 以上の国と地域で 13 万台超のロボットを出荷しています。